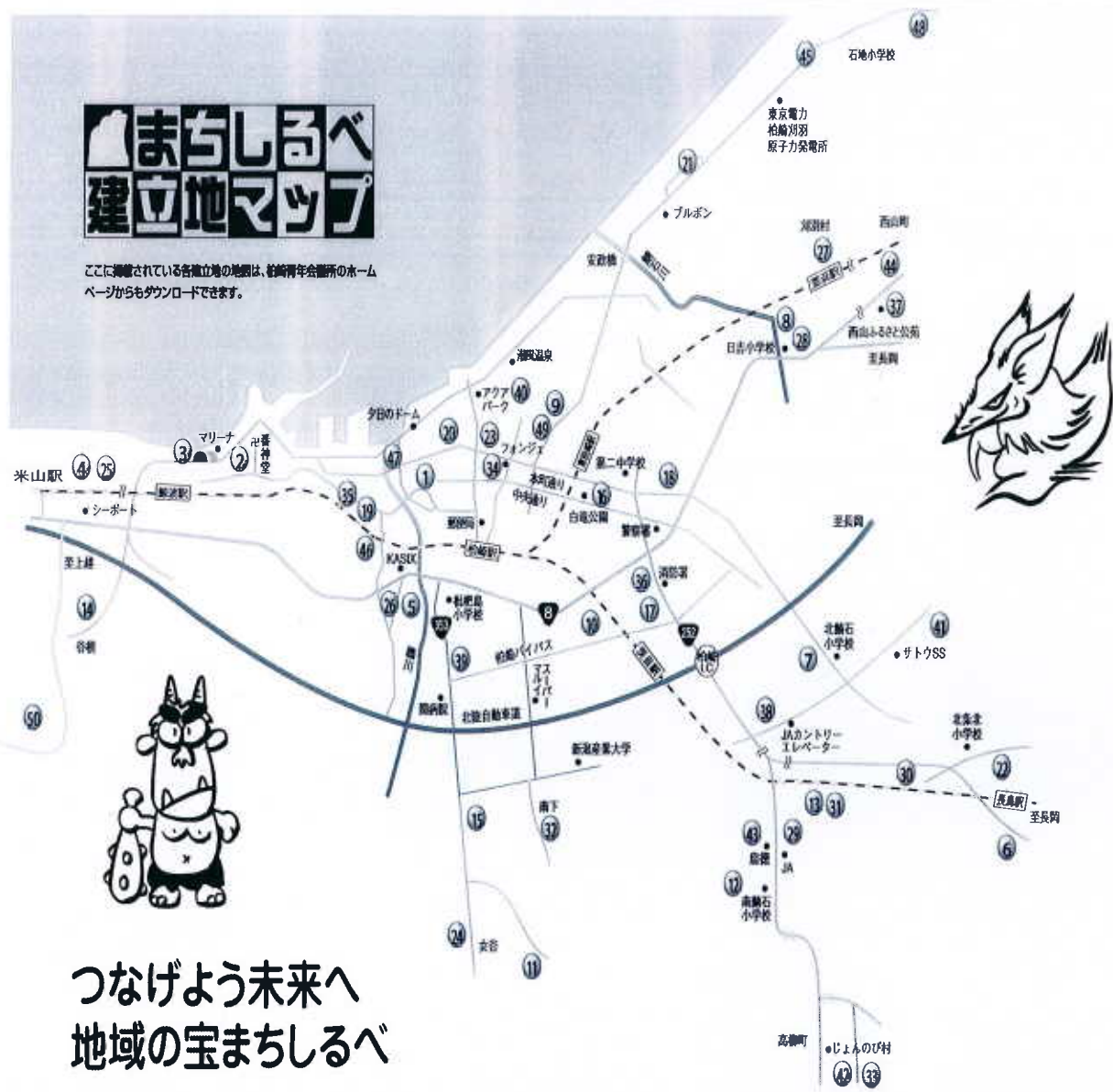


まちしるべ 建立地マップ

ここに掲載されている各建立地の地図は、若狭青年会館のホームページからもダウンロードできます。



つなげよう未来へ 地域の宝まちしるべ

- | | | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|--|--|---------------------------------------|
| 1 かしわの大樹
西本町3 水道橋公園内 | 11 出壺の水と谷川新田
清水谷 黒姫山登山道入口 | 21 漁網発祥の地・
荒浜のあそび場
荒浜3 荒浜漁港入口 | 31 学塾 三余堂
南条 三余堂跡地 | 41 石口広宗と矢田城址
矢田 矢田神社境内 |
| 2 番神山政三郎
番神2 夕日が見える森公園内 | 12 木喰上人と安住寺
石首根 安住寺境内 | 22 米山校校 (1704~1771)
JA柏崎長島事務所わき | 32 堀のふもと
南下 夢山地区内 | 42 じよんのびの里高柳
高柳町高尾じよんのび村地区内 |
| 3 鬼 穴
鯨波2 鯨波海岸 | 13 毛利元就ルーツの地
南条 佐橋神社境内 | 23 三階節
東本町1 専福寺境内 | 33 藤五郎狐の里
高柳町 橋ヶ原神社境内 | 43 清瀧寺188霊場巡り
加納 清瀧寺前 |
| 4 松田伝十郎生誕地
米山町 聖ヶ鼻 | 14 水源の里 谷根
六拡トンネル 谷根口そば | 24 最後の聖域 鶺鴒川
女谷 綾子舞会館前 | 34 常福寺
襦袢し合い敷与祭り
東本町1 常福寺境内 | 44 西山町の歩み
西山町 西山町事務所地区内 |
| 5 鴨丸の剣
剣野町 三島神社境内 | 15 上条城址
上条進修館裏 | 25 松平定信とお台場
青海川レストランシーガル | 35 弘法大師の茶の池
中浜2 茶の池 | 45 日本三大馬市 椎谷の馬市
椎谷 椎谷海浜公園内 |
| 6 弘法大師の塩水井戸
西長島 岩ノ入踏切下 | 16 白竜と義経
四谷1 白竜公園 | 26 うるはしき尼眠る寺
~真心尼と吉野秀盛~
常盤台 洞雲寺門前 | 36 北半田六地藏
北半田1 六地藏堂わき | 46 白亜双柱の塔 (彌州柏崎村の塔)
赤坂山公園内 |
| 7 藤井城址
JA柏崎北碓石支所奥忠堂公園内 | 17 かたがり松の京参り
茨目1 国道252線沿 | 27 刈羽村と桃
刈羽村 荒浜駅前公園内 | 37 燃ゆる水と草生水まつり
西山町 みるさと公園内 | 47 祇園祭発祥の社
八坂神社境内 |
| 8 不動院の龍燈木
土合 不動院門前 | 18 団子山
比角2 東部児童公園内 | 28 さとうなめ地藏さん
長崎 金泉寺境内 | 38 藤井堰と青山瀬兵衛
平井 藤井堰わき | 48 恋の懸け橋
西山町石地 懸橋寺境内 |
| 9 春日陣屋跡
春日2 公園内 | 19 松平定敬公本陣跡
大久保2 勝願寺境内 | 29 県内初の
コミュニティセンター
中碓石コミュニティセンター前
しゅうかいしょうじん | 39 琵琶島城址
城東1 公園内 | 49 えんま市
えんま堂前 |
| 10 日本の製油発祥の地
朝日が丘 | 20 柏崎の恩人 星野藤兵衛
西本町1 妙行寺境内 | 30 秀快上人の即身仏
西長島 真珠院地区内 | 40 新花町と金刀比羅神社
新花町11 金刀比羅神社境内 | 50 米山の伝説
米山 登山口 |

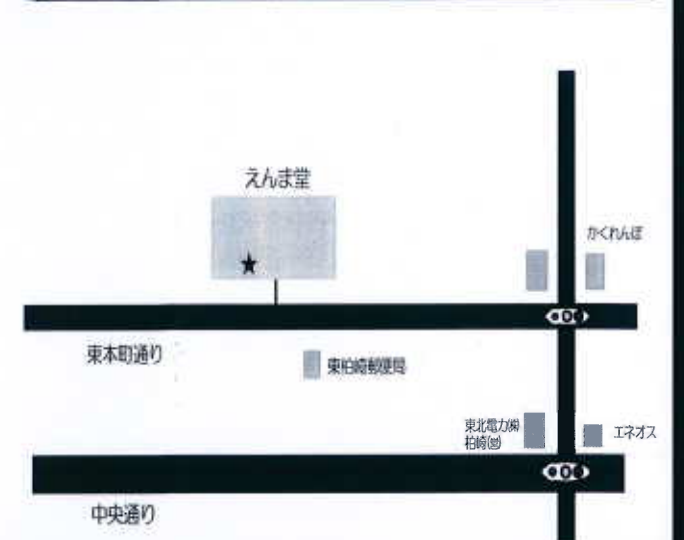
49 えんま市

「えんま市」は毎年6月14日から16日の3日間、閻魔堂を中心に西本町・ニコニコ通りから東本町の間で開催されます。えんま市は、柏崎納屋町(現在の西港町)で開かれていた馬市がその始まりといわれ、天保年間(1830年~1843年)に「閻魔堂の祭礼」として行われるようになりました。

かつてのえんま市では、サーカスや見世物などの興行も行われ、多くの人々で賑わっていました。

現在でも植木、遊戯、飲食などたくさんの露天が立ち並び、変わらぬ賑わいを見せるえんま市は、夏の訪れを知らせる柏崎地域最大の年間行事の一つです。

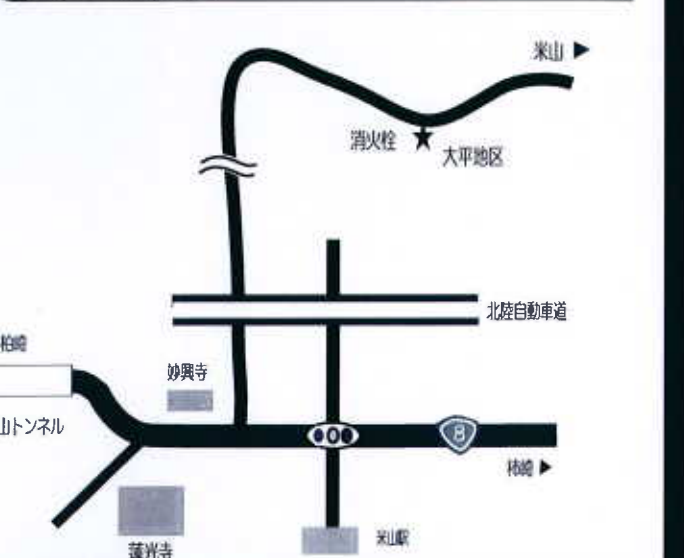
49 えんま市



50 米山の伝説

大昔、米山は五輪山と呼ばれ、泰澄という仏師がここで修行をしていました。泰澄は柏崎の沖合を通る船に鉢を法力で飛ばしては米などをもらっていました。ある日、米俵を山のように積んだ船に鉢一杯の米を分けてくれと頼んだところ、強欲な船主は米を一粒も分けてくれませんでした。そこで泰澄が念仏を唱えると、米俵が次々と山頂に向かって舞い上がっていききました。困った船主が山に登り、欲深さを詫言ったところ、米俵を見る間に船上に戻ったといわれています。以来、米の積み上がったこの山を人々は親しみを込めて「米山さん」と呼び、その時に刻まれた薬師が米山薬師と呼ばれ山頂に祭られています。

50 米山の伝説



No. 24 最後の聖域 鶺鴒川



No. 45 日本三大馬市 椎谷の馬市



No. 25 松平定信とお台場



No. 49 えんま市

ぜんたい
まち全体をミュージアムに！

まちしるべ事業のご紹介

せんげん 宣言

わたしは、次世代のすばらしいふるさとを継承していくため、
10年間にわたり、50基以上の「まちしるべ」を柏崎全域に設
置する。ふるさとへの誇りをもって、ここに「まちしるべ」事業
の開始を宣言する。

1997年11月6日
社団法人 柏崎青年会議所



2006年6月まちしるべ50基建立完了

2010年「まちしるべかるた」制作にあたり...

1997年、社団法人柏崎青年会議所は創立40周年記念事業として柏崎の歴史を後生に伝える「まちしるべ」の建立を宣言し、10年間で50基を建立しました。

本年、郷土愛育成委員会では、このまちしるべをさらに多くの人たちに知ってもらうべく、柏崎刈羽地域の小学生を対象にまちしるべの絵を募集し「まちしるべかるた」を制作いたしました。

まだまだ知られていない郷土の魅力が詰まったまちしるべ・・・。新たな郷土の魅力発見の旅に出かけ、そして、次世代の子どもたちにふるさと柏崎の魅力を伝えて行きましょう。

2010年度 郷土愛育成委員会

■まちしるべ事業とは...

私たちのまち「柏崎」は、たくさんの魅力を持った自慢できる「ふるさと」です。海と山とに囲まれた豊かな自然、歴史と伝統に支えられた誇りある文化、そして地域と人々が織りなす温かな人情など、私たちの「まちの宝物」は無限です。「まちしるべ事業」はそんな地域の「宝物」に光を当て、後世の子どもたちに語り継ぐと、1997年に始まりました。

石のモニュメントに地域の自然や歴史、文化、偉人、伝説などの文章を刻み込み、10年間で50基の建立を宣言して事業を推進してきました。多くの地域の皆様からご賛同とご協力をいただき、全50基の建立が完了しました。

■探してみませんか？あなたの町のまちしるべ

ぜひ皆さんも、公園やお寺、神社など、柏崎地域のいたるところに建立してある「まちしるべ」を探してみてください。そして、どうぞ足を止めてみてください。知らなかった柏崎のいろいろな「顔」が見えてくるはずです。そしてこの事業で柏崎地域の子どもたちがふるさとを愛し、誇りに感じるところを育むきっかけとなれば幸いです。



社団法人 柏崎青年会議所
Junior Chamber International Kashiwazaki
Worldwide Federation of Young Leaders and Entrepreneurs



〒945-0051 柏崎市東本町1-2-16 モーリエ2 5F
TEL 21-4412 FAX 21-4348 受付時間 AM10:00~PM4:00
HPアドレス <http://www.kashiwazaki-jc.or.jp/> Eメールアドレス info@kashiwazaki-jc.or.jp

4 松田伝十郎生誕地

よねやま びりがな
米山町 聖ヶ鼻

からふとかいきょう だいちにはけんや まつだでんじゅうろう わん はつさきむらげんざい よねやま
榊太海峡の第一発見者である松田伝十郎は、1768年に鉢崎村(現在の米山町)の浅貝家に生まれ、13歳の時に幕臣松田家の養子となりました。のちに北海道松前奉行所勤務になり、1808年に間宮林蔵と共に榊太の探検に出かけ、林蔵より早く榊太海峡を発見、「カラフトは離島なり、大日本国境と見極めたり」と宣言しました。

ここは、聖ヶ鼻など伝説の宝庫でもあります。かつて鉢先関所が置かれ、俳人芭蕉が泊まった「たわら屋」跡が残されています。

4 松田伝十郎生誕地

米山町 聖ヶ鼻



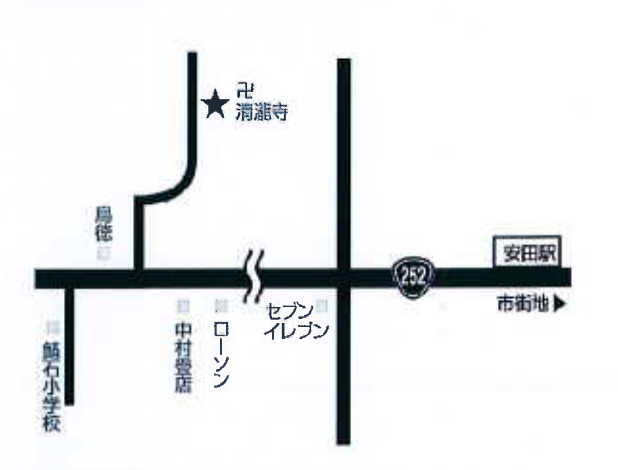
43 清瀧寺 188霊場巡り

加納 清瀧寺前

ここ清瀧寺は阿彌陀如来を本尊に、717年に開基されました。31代憲精和尚が四国88番西国33番、坂東33番、秩父34番の礼所を行脚し、各本堂から頂戴したお砂と188の石仏を各々の霊場としてこの寺に建立してあります。霊場を巡り歩く事を「へんろ」といい、その昔、弘法大師が開いた霊場を遍歴したのが始まりと伝えられています。ここ清瀧寺では188の霊場を巡り歩くへんろ祭りがあり、霊場巡りは、今も昔も人々の苦しみを癒し、生きる喜びと安らぎを与えてくれる旅として親しまれています。

43 清瀧寺188霊場巡り

加納 清瀧寺前



5 鴨丸の剣

けんちやう みしまじんじやい
剣野町 三島神社境内

てんぴやう わん えひめのおやまじんじや ふんし みしまじんじや じんぽう ひと
天平13年(741)、愛媛大山祇神社より分祀された三島神社には、神宝の一つとして剣が祀られていました。保安4年(1123)、この剣が盗まれましたが、盗賊は神罰により逃げる途中、南にある延命池で溺れてしまいました。一羽の鴨がこの池の底から剣をくわえて飛び立ち、南東の丘に落としました。剣は地中深く沈み、それ以来「延命池」を「鴨くぐり」と呼び、剣が沈んだ所に「鴨八幡宮」を祀り、この辺りを「剣野」と呼ぶようになりました。

5 鴨丸の剣

剣野町 三島神社境内



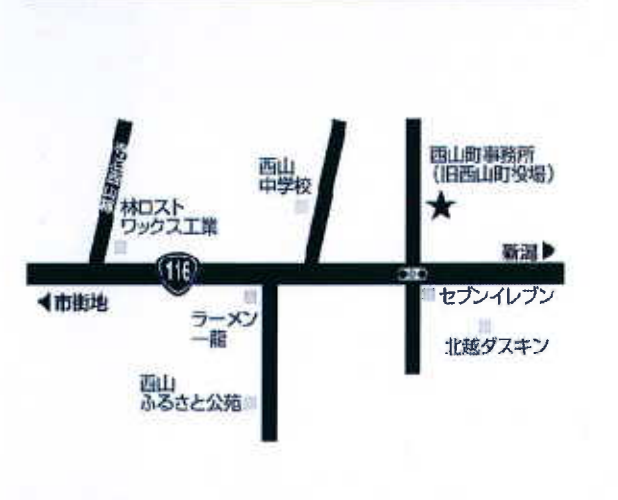
44 西山町の歩み

にしやまち 歩み
西山町事務所前

西に雄大な日本海、東に西山連峰を控え、彩りあざやかな四季と豊かな自然環境に恵まれた西山町は、1959年朝日町と二田村が合併して誕生しました。かつては北国街道の宿場町として栄え、いくつもの文化が花開き、古事記の神話を伝える大和舞は無形文化財に指定され、先人の残した伝統を今に伝えています。1972年、日中国交回復を実現した田中角栄元首相の出身地であり、日本最大級の油田地帯として隆盛を極めた西山町も、2005年5月1日、柏崎市・高柳町との合併により46年の歴史に幕を閉じ、柏崎市として新たな一歩を踏み出しました。

44 西山町の歩み

西山町事務所前



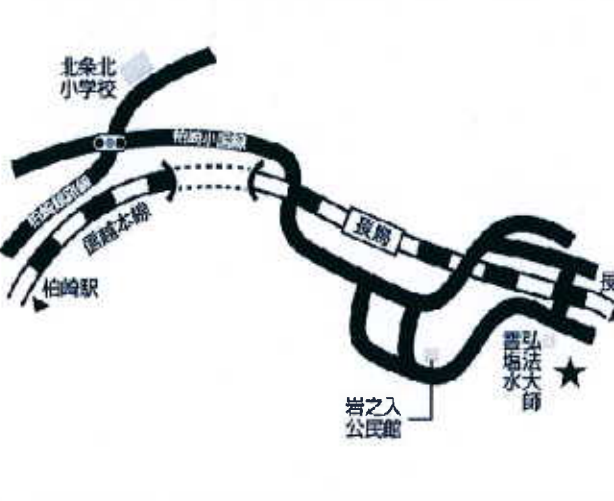
6 弘法大師の塩水井戸

にしながはり
西長島
いわのいりみきりした
岩ノ入踏切下

ある夏の夕暮れ、一人の旅の僧侶が岩の入を訪ねて、一軒の貧しい家へ夜を乞いました。老婆は「お宿はかまいませんが、一飯をさしあげようにも味も塩も切れ申しましたが。」と答えました。その夜、老婆の心づくしの食事「塩気なしの芋粥」でしたが、旅の僧侶は快く馳走になりました。翌朝、老婆を庭先に誘った旅の僧侶が、手に持った錫杖を力いっぱい大地につきさすと、その先から渾々と湧き出たのがこの塩水です。旅の僧侶は「弘法大師」でありました。

6 弘法大師の塩水井戸

西長島 岩ノ入



45 日本三大馬市 椎谷の馬市

いひや うまいち
椎谷 椎谷海浜公園内

「椎谷の馬市」は、武勇の誉れ高い初代椎谷藩主堀直之公が馬匹改良を奨励したことから始まり、その後、日本三大馬市として、安芸の広島、奥州の白河と並び称され、安政年間(1854~1859)には、売買のために8千頭から1万頭もの馬が集まったと伝えられています。この馬市は、6月下旬から7月上旬にかけて行われ、この市に集まる博労(牛馬の売買を業とする人)は、最盛期には1万2,3千人にも及んだそうです。また、この時期、馬に食べさせる青草を積んだ多くの草船で海が緑色になったとも伝えられています。この馬市は、昭和の初め頃まで催されていました。

45 日本三大馬市 椎谷の馬市

椎谷海浜公園



46 白亜双柱の塔 (満州柏崎村の塔)

あかさがやまこうえん
赤坂山公園内

かしわざきむらからいたくたん きゅうまんしゅうこくさんえしやう げん こくりゅうこうしやうつうかけん たいへい
柏崎村開拓団は、旧満州国三江省(現・黒竜江省)通河県にありました。太平
ようせんそうちゆう ねんくに せいさく し しようせい こた あら かしわざきむら
洋戦争中の1942年に国の政策のもと、市の要請に応じて新たな柏崎村を
かいたく ゆめ そうとすう と めい まんしゅう にゆうしよく
開拓することを夢みた総戸数45戸206名が満州に入植しました。

ねん がつ か きゆう れん たいにちせいせんふく まんしゅうしんこう おお ざんりゆう
1945年8月8日に旧ソ連の対日宣戦布告、満州侵攻により多くの残留
ふじん ざんりゆうこじのこ かこく どうひこう よぎなく おお ひとびと
婦人、残留孤児を残しながらの過酷な逃避行を余儀無くされ、多くの人々が
亡くなりました。

とう まんしゅう いのち おと にほん ききようてき ひと ちんこん へいわ わが
この塔は、満州で命を落し日本へ帰郷出来なかった人の鎮魂と平和を願い
ねん がつ にほんかい ちゆうごくのぞ ち こんりゆう
1986年7月、日本海から中国を望むこの地に建立されました。

46 白亜双柱の塔 (満州柏崎村の塔)

あかさがやまこうえん
赤坂山公園内



47 祇園祭発祥の杜

やさかじんじやけいだい
八坂神社境内

ぎんぐん さん の なで 親まれて いる 八坂神社は 11代 垂仁天皇の 御代に 和
なみ 水門 祇園社 として 創建され、八岐大蛇伝説で有名な 素戔嗚尊を 祭神
として います。現社殿は 番神堂 と同じく 4代 篠田宗吉が 棟梁を 務め、建立
されました。

この地は 柏崎中心の 花街として 長く 栄え、お祭りの 時は 多くの 参拝者
で 賑わい、人々は 名物のお団子などを 食べながら、花火を 楽しんだとい
ます。その 様子は 春は 住吉夏祇園おばな祭りの 諏訪の 賑わいとうたわれ
ました。

お祭りは 7月7日の 始祭・例大祭・毎夜祭・7月27日 終了奉告祭と 続き、
神輿渡御は 街中に 夏を 伝えました。

47 祇園発祥の杜

やさかじんじやけいだい
八坂神社境内



48 恋の懸け橋

にしやまちょういしじ かけはしでらけいだい
西山町石地 懸橋寺境内

その昔、この地に「いもり」と「なが」の二神が住んでいました。「いもり神」に
は美しい娘がおり、「なが」がその神は、その娘を自分の妻にしたいと申し出ていま
した。

しかし、「いもり神」は乱暴者の「なが」に娘を嫁がせることを快く思わず、
「一晩で佐渡まで岩の橋を架ければ娘を嫁にあげよう」と難題を出しまし
た。

「なが」は次々に岩を運びましたが、それを見た「いもり神」の策略により、
朝が早く来たと勘違いしてしまい約束を果たせませんでした。
羅石尊は「なが」の神の霊であると信じられ、お参りをする縁結びや子宝に
ご利益があるといわれています。

48 恋の懸け橋

にしやまちょういしじ かけはしでらけいだい
西山町 懸橋寺境内



1 かしわの大樹

にしほんちやう すいどうばしこうえん
西本町3 水道橋公園内

いま ねん むかしうかわ かこう すこ じやうりゆう りやうし ふなつきぼ
今から700ほど昔、鶺鴒川の河口から少し上流のあたりに漁師の船着場が
ありました。そこから見える向こう岸になんご沢(レンガ坂)、その頂上付近
には「大きなかしわの木」がそびえ、遠く海上より手こぎの船でかしわのさき
をゆく漁師の大切な目印となっていました。

この「かしわの大樹」が柏崎の名前の由来ともいわれています。

1 かしわの大樹

にしほんちやう すいどうばしこうえん
西本町3 水道橋公園内



2 番神山政三郎

ばんしん ばんじん
番神2 番神園内

すもう ばんしん じゅうどう いしぐろ かしわざき みるやう さんがいふし うた ばんしん
「相撲じゃ番神、柔道じゃ石黒」と柏崎の民謡・三階節にも唄われた番神
さん まささぶろう かしわざきしみさきやう げんざい ばんじんしゅしん りきし ぼつじやう ねん がつ
山政三郎は、柏崎市岬町(現在の番神)出身の力士です。初土俵は1927年1月、
さいこうい まえがしらにまいり ねん がつ てんらんずもう けうしやう
最高位は前頭二枚目で1934年5月の天覧相撲で優勝しました。

番神山が相撲界に入った昭和初期は世界的不況の暗い時代でしたが、そこ
に彗星のごとく番神山が登場しました。地元柏崎刈羽の人々のみならず、新
潟県民も大変誇りに思い、世の不況を吹き飛ばすほどに熱狂し、声援を送り
ました。

2 番神山政三郎

ばんしん ばんじん
番神2 番神園内



3 鬼穴

くじらなみ くらなみかいがん
鯨波2 鯨波海岸

その昔、この穴に赤鬼が住んでいました。鬼は娘を捕らえては食べ、村人た
ちを苦しめたので、神様に鬼を追っ払ってもらおうと、下宿(今の番神)の番
神さんをお願いしました。

番神さんは29人の仏様を従え、うちわ太鼓を打ちながら声を張り上げ、お
題目をとなくて穴に近づきました。太鼓の音と仏様の声に、赤鬼は穴から逃
げていきましたとき。

3 鬼穴

くじらなみ くらなみかいがん
鯨波2 鯨波海岸

